



# 令和2年度大船渡市地域公共交通計画策定支援業務 成果概要 (2/2)

## 大船渡市地域公共交通計画（案）の作成整理結果

### これからの課題

- 課題① 定住自立圏構築も含めたまちづくりに対応した持続可能な交通体系の構築**
  - 定住自立圏の構築に向けた広域行政の視点での「まちづくり」に柔軟に対応した交通体系の構築
  - まちの発展に寄与する持続可能な交通体系の構築
- 課題② 人口減少・高齢化に対応したお出かけ機会の提供**
  - 全市的な人口減少、急激な高齢化に対応した交通サービスの提供
  - 運転免許返納後のお出かけ機会の減少・健康面への影響の払拭
- 課題③ 地域公共交通サービス水準の不均衡・地域内格差の是正**
  - 中心地区と吉浜・越喜来・綾里・末崎地区の地域公共交通サービス水準の不均衡の是正
  - 吉浜地区に広域の存在する交通不便地域・交通空白地域から中心地区へのアクセシビリティの向上
- 課題④ 利用者ニーズに対応した多様な交通モードの連携・強化**
  - 様々な交通モードが個々で運行されており、地域公共交通ネットワークの構築・充実
  - 学生・高齢者のニーズと現状の交通サービスにあわせた乗り継ぎ環境の整備
- 課題⑤ 地域公共交通の利用方法等におけるわかりやすい情報提供**
  - 地域公共交通の運行ルート等に係る情報発信
  - 地域公共交通の利用の仕方等の情報提供
- 課題⑥ 国の支援見直し・利用者の減少に伴う持続可能な交通運営の維持**
  - 利用需要が少なく、国の支援等が無くなると運行継続が難しい路線バス系統の維持
  - 行政・交通事業者のみの地域公共交通の存続・運営
- 課題⑦ 他分野と連携した交通体系の構築**
  - 市民の生活サービスの享受等に資する福祉分野や教育分野等との連携
  - 交流人口の需要取り込み等に資する観光分野や商業分野等との連携

### 現計画の事業実施に伴う交通課題（クリアすべき事項）

- ※岩手県交通によると、「（現時点では）次年度以降に市内を運行する路線バスサービスの更なる運行効率化の予定はない」とのこと。
- タクシーチケット対象者の条件（要件）におけるバスサービス水準や利用者の身体的な状況などを加味
- タクシーチケット利用状況の検証による特性の明確化とデマンド交通等との差別化についての知見の蓄積
- バス路線や地域内交通の見直しにおける沿線住民・利用者ニーズを加味した路線見直し
- バス路線や地域内交通の見直し後における適切なフォローアップ
- 利用者の声、児童・生徒の保護者の声を収集することの必要性
- 各地区の公共交通利用者・移動手段を必要とする住民のリストアップ（データベース化）
- 公共交通を利用する可能性のある市民等への公共交通でのアクセス方法等に関する情報発信の徹底
- 特定乗継拠点等におけるトイレ施設の整備あるいはバス車内におけるトイレ施設の周知案内
- 市が運行主体となった移動支援サービスによる民業圧迫の可能性についての市民・利用者の理解向上
- 地区内移動や地区外移動が（自立して）できる高齢者の身体的な状況を加味した移動支援サービスの在り方検討（市としてどのような移動支援サービスが提供できるのか、また相応しいのかを分野横断で考えること）

住民意見交換・バス事業者ヒアリング結果

### 住田町への簡易アンケート

- 大船渡市と住田町の市界から車で5分程度の国道107号沿線に、住田町のコミュニティバスやスクールバスの運行業務を受託している**交通事業者の拠点事務所があり、輸送資源の活用が可能**であることが分かった（ただし、国道107号および周辺は路線バスとデマンド交通が運行されている）。
- 住田町からは、商業施設が主体となった送迎サービスの拡大（現状では遠野市～住田町はサービス実態あり）を望んでおり、同様のサービスが大船渡市～住田町で行われた場合、路線バス等との重複が懸念されることが分かった。
- 大船渡市と住田町をつなぐ路線バス（大船渡住田線）は、バスサービスの維持を前提として、財政投入することとしている。

### 目的施設への簡易アンケート

- 3事業者とも**バスを活用した買い物支援サービスを提供している**ことが分かった。
- 提供エリアは、末崎地区・吉浜地区・大船渡地区・盛地区から大船渡市街地までの買い物送迎バスであり、他の公共交通モードが存在する末崎地区では月1回、面的に公共交通不便地域（特にバス）が広がる吉浜地区では週1回、大船渡地区・盛地区では週2回の運行となっている。
- 吉浜地区での**買い物送迎は現状維持の意向**があり、運行に問題課題は抱えていない状況にある。
- 一方で、**末崎地区の場合**、事業者からは公共交通との連携に対して複数の連携方針に「検討の可能性あり」と前向きな返答をくれているが、末崎地区において碁石線（1日3往復）の運行本数が著しく少ないこと等が相まって、**送迎サービスの頻度を月1回から週1回に増やしたい意向**を示している。また、それに合わせて、**運転手の常時確保に向けて各地域における運転手の確保（地域に居住する高齢者の運転手としての雇用）が必要との指摘**がなされており、**末崎地区においては、共助交通の機運の高まりが顕在化している状況**にあることが分かった。
- 大船渡地区・盛地区では、利用者の高齢化が進み、**買物そのものの補助が必要**になってきていることと**公共交通との兼ね合い**を問題にしていることが分かった。



### 今後の課題

公共交通カバー人口の拡大等に向け、吉浜地区における目的バス（スクールバス・患者輸送バス）の有効活用策について次年度検討し、最終的に「大船渡市地域公共交通計画」を取りまとめる